



至善館

SHIZENKAN

大学院大学至善館
イノベーション経営学術院

2025 年度科目等履修生募集要項

＜対象科目＞
ソーシャル・インパクトの創出

目的

科目等履修生制度は、至善館の専門職修士課程の開講科目の一部を、修士課程の履修生以外の方に科目単位で履修いただける制度です。科目ごとに募集・選考を行った上で若干名の方に履修を認めるもので、履修を完了された方は単位を取得することができます。

この募集要項では、日本語にて開講する「ソーシャル・インパクトの創出」科目について記載します。科目等履修生を受け入れている他の科目については、P.6を参考にしてください。

科目の概要

(シラバスより抜粋。詳しくは本資料の末尾にシラバスを掲載しておりますので、参照してください。)

本科目では、社会イノベーションを生み出す事業や組織を構想し、実践する能力を身に付けることを目指す。資本主義社会の未来の形の変化が語られる中、変化を生み出すリーダーとして、社会イノベーションを生み出す発想や能力を身に付けることがますます重要となっている。社会課題解決の主体は多岐にわたる。さまざまな企業が財務インパクトと社会的インパクトを両立させ、さらには従業員や周囲のステークホルダーのウェルビーイングを高める「3つのインパクトの追求」に挑戦している（本科目では、こうしたビジネスモデルを「インパクトビジネス」と呼ぶ）。一方、社会課題の解決においては、NPOをはじめとしたソーシャルセクター、行政機関からなるパブリックセクターもまた、重要な役割を担っている。こうした多様なアクターについて、その本質的特徴を理解するとともに、多様な実践事例を分析し、あらゆる立場で社会にインパクトを生み出す事業を創出し、ファシリテートする能力を高めることが本科目の目的である。

参加者には、本コースを通じて、「社会的インパクトとは何か」「社会的インパクトを生み出す上でのビジネス、ソーシャル、パブリックセクターそれぞれが持つ特性とはどのようなものか」「自分自身がリーダーとして、社会インパクトの創出にどのように取り組むのか」といった問いに向き合うことを期待する。

授業開催方法・日時

至善館キャンパスもしくは Zoom を利用したオンラインにて実施することを予定しております。開講日時は以下の通りです（日本標準時間）。

セッション 1 : 2025 年 10 月 31 日（金）18:30-21:45（至善館キャンパス）

セッション 2 : 11 月 7 日（金）18:30-21:45（至善館キャンパス）

セッション 3 : 11 月 14 日（金）18:30-21:45（至善館キャンパス）

セッション 4 : 11 月 21 日（金）18:30-21:45（オンライン : Zoom）

セッション 5 : 11 月 28 日（金）18:30-21:45（至善館キャンパス）

セッション 6 : 12 月 5 日（金）18:30-21:45（至善館キャンパス）

セッション 7 : 12 月 12 日（金）18:30-21:45（オンライン : Zoom）

セッション 8 : 12 月 19 日（金）18:30-21:45（至善館キャンパス）

選考方法

(1) 選考内容

入学者の選考は、出願書類による一次審査の後、面接試験による二次審査を経て、判定します。面接試験では、出願書類の内容を含め、本科目へ参加いただくにあたっての問題意識や適性について、総合的な評価を行います。本科目は日本語で実施しますので、選考についても日本語で実施します。本プログラムの選考では、GMAT や GRE のスコア提出を求めません。

(2) 面接試験

面接は原則としてオンラインにて（Zoom を利用）実施することを予定しております。面接日時は出願時に候補の中から選択していただきます。URL 等の詳細については、第一次選考結果通知時にお知らせします。

出願資格

出願時点において、次のいずれかに該当する方で、本学入学までに、原則、常勤者として満 3 年以上の社会人経験を有する方が出願の資格を有します。

- (1) 大学を卒業した方
- (2) 大学評価・学位授与機構から学士の学位を授与された方
- (3) 外国において学校教育における 16 年の課程を修了した方
- (4) 文部科学大臣の指定した方
- (5) 本学において修士課程を受けるにふさわしい学力および実務経験があると認められた方

出願及び選考プロセス

出願は、本学のウェブサイトより行なっていただきます。出願プロセスは、以下の4つのステップから構成されています。

ステップ1：出願

- 次の出願フォームの指示に従い、出願してください。第二次の面接審査の希望日程も同時に伺います。なお、出願書類の志望動機の欄は、日本語で記入いただくようお願いいたします。

<https://forms.gle/KHAXjiRuZt5NDgCh7>

ステップ2：書類選考、面接審査日程のご連絡

- 提出書類をもとに、第一次の書類選考を行います。書類選考を通過した方を対象に、第二次の面接審査を行います。書類選考を通過した方に対して、出願フォームに記載頂いた E-mail アドレスに、事務局より面接審査の日程と Zoom URL をお送りします。

ステップ3：面接審査

- 面接審査は、オンライン（Zoom）にて行います。所要時間は30分程度です。

ステップ4：合否連絡と入学手続

- 書類・面接審査の結果を踏まえて合否判断を行い、合否結果をご連絡します。
- 合格された方は、科目等履修生登録料と授業料の振り込みをいただきます。科目等履修生登録料と授業料の振り込みの完了をもって、科目等履修生としての受講を正式に認めます。

応募締め切り

- 2025年10月10日（金）12:00

面接審査日程（予定）

出願フォームに入力いただいた希望をもとに次の日程のいずれかで30分を予定しています。

2025年10月15日（水）18:30-22:00

2025年10月16日（木）18:30-22:00

合否結果のご連絡日程（予定）

出願フォームに記載頂いた E-mail アドレスに、事務局よりお送りします。

2025 年 10 月 17 日（金）

入学手続きおよび履修手続き

手続きは、合格通知と併せてお知らせする指示にしたがって行ってください。

手続き期限は 2025 年 10 月 30 日（木）です。

出願にあたり入力いただく項目

出願にあたって入力いただく項目は以下の通りです。すべての項目が揃った時点で正式な出願受付となります。締め切りまでに全ての項目が提出されなかった場合、出願は受け付けられません。

1. 氏名
2. 性別
3. 国籍
4. 生年月日
5. 住所
6. 電話番号
7. E-mail アドレス
8. 現在の勤務先
9. 学習歴
10. 志望動機および本科目での学びへのコミットメント
11. 面接日程の希望
12. パスポートの写し（日本国籍以外の方）
13. 在留カードの写し（日本国籍以外の方）

入学検定料について

入学検定料は 2025 年度に関しては不要です。

学費等について

履修にかかる費用は次のとおりです。

科目等履修生登録料	30,000 円
授業料	200,000 円
合 計	230,000 円

- (1) 授業料には、コースにて用いるケース教材の費用(使用する場合)を含みますが、教科書や参考図書の費用は含みません。
- (2) 前年度または同年度に科目等履修生として他の科目を履修しており、その履修にあたり科目等履修生登録料(以下、登録料という)を支払い済みであった場合、2科目目以降の登録料の支払は免除されます。

個人情報取り扱いについて

本学では、提出された出願書類等は、入試関連業務及び入学後の学籍管理関係業務以外には使用しません。本学のプライバシーポリシーについては、本学ホームページをご覧ください。応募した方々は、本学のプライバシーポリシーに同意されたものとみなします。



留意事項

- (1) 履修した科目の単位取得要件を満たした方に、単位を授与し、本人の請求により単位習得証明書を発行します。
- (2) 科目等履修生には、通学証明書(通学定期用)及び学割証は発行されません。
- (3) 本学の科目等履修生であることを根拠とする在留資格は、取得できません。
- (4) 授業が未開講になった場合、受講許可を取り消す可能性がありますのでご了承ください。
- (5) 科目等履修生として単位を取得後、5年以内に至善館の修士課程に入学した場合、単位取得科目について、4単位を上限に、取得済みとして認められる場合があります。この場合、当該科目の履修に際して支払い済みの授業料の金額を修士課程の授業料より差し引きます。

科目等履修生を募集する他の科目

至善館では、本科目以外にも、科目等履修生の受け入れを予定しています。以下が、2025 年 11 月から 2026 年 3 月の期間における対象科目一覧です。科目により、2 言語で提供（日本語・英語）、英語のみで提供しているものがある点にご留意ください。

科目名	言語	開講時期	募集開始
アントレプレナーシップと事業創造 Entrepreneurship and Business Start-up	日本語	2025 年 11 月-12 月	2025 年 9 月
	英語	11 月-12 月	9 月
ソーシャル・インパクトの創出	日本語	11 月-12 月	9 月
Leadership and Negotiation リーダーシップと交渉学	英語	2026 年 1 月-3 月	11 月
	日本語	1 月-2 月	11 月
Global Management: Strategy, Organization and Leadership	英語	1 月-3 月	11 月



科目名： ソーシャル・インパクトの創出
科目コード： B201EL-25JP
実施年度： 二年次前期
単位数： 2 単位（選択科目）
実施期間： 2025 年 10 月 31 日（金）～12 月 19 日（金）
統括教員： 鶴尾 雅隆 教授
担当教員： 上山信一特命教授、工藤七子特任准教授、田淵良敬特任准教授
授業実施形態： 対面を中心に、一部オンラインで行う

本科目は、至善館の学生に加えて、インパクトビジネス実践者、インパクト投資家、財団、NPO などの社会課題解決の実践経験を持つ単科受講生が参加する。至善館学生とこれら単科受講生の共創的な学びの空間というユニークな特徴を活かして、社会に変化を生み出す事業構想力を高めることを狙いにおく。

科目の目的：

本科目では、社会イノベーションを生み出す事業や組織を構想し、実践する能力を身に着けることを目指す。資本主義社会の未来の形の変化が語られる中、変化を生み出すリーダーとして、社会イノベーションを生み出す発想や能力を身に着けることがますます重要となっている。社会課題解決の主体は多岐にわたる。さまざまな企業が財務インパクトと社会的インパクトを両立させ、さらには従業員や周囲のステークホルダーのウェルビーイングを高める「3つのインパクトの追求」に挑戦している（本科目では、こうしたビジネスモデルを「インパクトビジネス」と呼ぶ）。一方、社会課題の解決においては、NPOをはじめとしたソーシャルセクター、行政機関からなるパブリックセクターもまた、重要な役割を担っている。こうした多様なアクターについて、その本質的特徴を理解するとともに、多様な実践事例を分析し、あらゆる立場で社会にインパクトを生み出す事業を創出し、ファシリテートする能力を高めることが本科目の目的である。

参加者には、本コースを通じて、「社会的インパクトとは何か」「社会的インパクトを生み出す上でのビジネス、ソーシャル、パブリックセクターそれぞれが持つ特性とはどのようなものか」「自分自身がリーダーとして、社会インパクトの創出にどのように取り組むのか」といった問いに向き合うことを期待する。

学修の到達目標：

社会課題のシステム的な構造的理解を深め、表層的ではない、社会の問題のシステム的解決のイメージを習得する。

社会にインパクトを創出するビジネスとそこを支えるインパクトファイナンスの現状と課題、今後の展望を理解する。

NPO などの「社会課題を解決する」ことを第一義的な目的とした組織が生み出しえる社会イノベーションの価値と可能性、限界性を、世界的に有名な事例検証や実際の社会起業家との対話を通じて体感する。

政府・行政機関アクターの行動原理（機能と限界）、公共政策の形成プロセスを理解しつつ、ケース演習を通じて多様な連携による「エリアイノベーション」の事例を手掛かりに「社会課題」「公共」「政策」「改革」についての洞察を深める。

上記を踏まえて、多様な主体と協働してインパクトを生み出す「コレクティブインパクト」の発想を理解するとともに、自らが人生を通じて社会にインパクトを生み出すために、どう今後を設計するかを構想を具体化する。

科目の位置づけ：

この科目は、一年次に提供した「社会システムの理論と人間存在の未来」の授業で得た社会の大きなシフトについての理解や東洋思想、企業論、資本主義論などを踏まえつつ、具体的な社会イノベーションの創出過程、仕組みや制度、情熱や葛藤などを理解し、社会イノベーションをリーダーとして構想し、行動する力を培う。

本科目は、至善館プログラムの 2 年次に配置される、「サステナビリティ・社会イノベーション」トラックに位置付けられる。学生にとって、1 年次のコースを通じて得た知識やスキル、また、自己理解に基づき、社会課題に挑戦し、新たなイノベーションをもたらす自らのリーダーシップの旅について、展望する機会となる。

学修アプローチ：

講義とケース、ゲスト講師などの対話型の授業を通じて、社会問題に対して具体的なソリューションを生み出している NPO、社会起業家、行政等の事例を検証しつつ、その本質と新たな潮流を概観する。

授業に単科受講生として社会問題解決に取り組む実践者が一定数参加することにより、クラスディスカッションを通じて深く広い学びを実現する。

最終課題としては自らの人生を通じてどう社会にイノベーションを生み出すリーダーになるかについて構想する。

関連リーディング：

ヘンリー・ミンツバーグ著『私たちはどこまで資本主義に従うのか (Rebalancing Society) 』（ダイヤモンド社、2015）

マーク・J・エプスタイン(著) 鶴尾雅隆(監訳) 「社会的インパクトとは何か (Measuring and Improving Social Impact)」 (英治出版、2015)

上山信一著『大阪維新』 (角川 SSC 新書、2010 年)

上山信一著『組織がみるみる変わる 改革力』 (朝日新聞出版、2014 年)

参考図書：

- 水口剛監修 「意図を持つ金融～インパクトファイナンスのすべて」 (金融財政研

究会、2025 年)

- 上山信一他著『行政の経営分析』 (時事通信社、2018 年)

- 宮垣元著「NPO とは何か」 (中公新書 2024)

- 鶴尾雅隆、洪澤健共著「寄付をしてみよう、と思ったら読む本」 (日経新聞出版、2018)

- 須藤奈応著 「インパクト投資入門」 (日経文庫 2021)

- Sir Ronald Cohen 著『On Impact-A Guide to Impact Revolution (インパクトとはーインパクト革命へのガイド)』 (日本語訳提供)

※単科生は至善館の生徒が前提としている社会認識を理解するために以下の参考文献と映像資料を事前に見ることを推奨する。

「経営リーダーのための社会システム論」 (至善館講義シリーズ)。

Darwin's Nightmare ダーウィンの悪夢

https://www.youtube.com/watch?v=D1_xCfHg3iY

評価基準：

この科目は、次の 3 つの要素で評価する。なお出席要件はもとより、「最終提出する課題 (インパクト創出プラン)」は単位取得の必須要件となる。これらを未提出・未実施の場合は、単位の取得はできないものとする。やむをえず授業を欠席した場合でも授業ビデオを見たうえでフィードバックシートを提出することは推奨する。

クラス出席 (30%)

各クラス事前・終了後に提出する課題提出とディスカッションへの貢献（30%）
最終提出する課題（インパクト創出プラン）の発表とレポート（40%）

剽窃について：

本学の方針に従い、グループ発表や試験レポートにおけるリファレンス（引用元・参照元の明記）のないカット&ペーストやカンニング（剽窃（ひょうせつ）、第三者による代筆等）、各種不正が発覚した場合、当該科目の成績を F とする。不正行為が二度にわたった場合は、内容の如何を問わず、退学処分とする。

レポートの提出遅延について：

提出期限を過ぎて提出されたレポートは減点対象とし、場合によっては評価対象外となるので注意されたい。

各セッションの概要：

ソーシャルビジネスや社会的インパクトについて知る（Knowing）の要素はあるが、それ以上に自らが実践するうえで必要な感覚を得る（Doing）の要素と、自分自身の人生において自分の社会の中での役割を考える（Being）の要素を重要視している。本コースの最後には、「自分の人生で社会に変化（インパクト）を生み出すということ」について明確なイメージを持つ状態を実現することを目指す。本コースは、全8回のセッションで構成する。

各セッションの概要：

セッション1：社会のリバランスと3つのセクター[3時間 15分]

セッション2：社会課題の構造的理解[3時間 15分]

セッション3：NPOの多元的スケール戦略の本質[3時間 15分]

セッション4：公共政策とエリアイノベーションの本質[3時間 15分]

セッション5：インパクトビジネスの本質[3時間 15分]

セッション6：インパクトファイナンスとエコシステムの最前線[3時間 15分]

セッション7：インパクトを生み出す基軸力：「共感性」の生み出す価値[3時間 15分]

セッション8：自身の人生でのインパクトを考える[3時間 15分]

お問い合わせ

大学院大学至善館 事務局

住所：〒103-6117 東京都中央区日本橋 2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング 17F

電話：03-6281-9011

E-mail : admissions-non-degree@shizenkan.ac.jp

